

2022年4月8日(金) リモート開催

■会長／北川 和彦 ■幹事／飯田 兼光

◆司会＝玉本 広人 SAA

◆ゲストビジター＝本日はいらっしゃいません

◆会長告知・北川和彦会長＝五味武嗣会員のご尊父様が4日に亡くられました。謹んで悔やみ申し上げます。ご尊父様も当クラブの会員でした。

ロータリー財団は、ウクライナでの戦争に関する人道的危機への対応の窓口として災害救援基金を指定し、ウクライナ国内と同国と国境を接する指定ロータリー地区に対して補助金を拠出するために基金を立ち上げ、この基金に対する寄付を募ることにしました。

第2600地区としては地区特別基金から200万円を財団災害救援基金に寄付することにし、各クラブと会員個人に寄付を依頼することを決定しました。この方法が最も早い支援に繋がるかの判断からです。先週の当会の理事会において、ウクライナ支援を行うことの頭出しをしましたが、改めてこの寄付を検討したいと思います。次回の4月22日の例会には、友好クラブの瀬戸ロータリークラブから3名の方がリモート参加されますのでご期待ください。本日は三澤会員の新人会員卓話です。よろしくお祈りします。

◆幹事報告・飯田兼光幹事＝本日はプログラム委員会の担当で、会員卓話です。三澤会員後ほど宜しくお願い致します。新人会員候補 アクサ生命(株) 諏訪営業所長 岡 幹人(おか みきと)さんの審議が行われ、全員一致で承認されました。

推薦者は岩波寿亮(いわなみ としあき)会員と私飯田です。ご異議のある方は幹事宛7日以内にお申し出ください。五味武嗣(ごみたけし)会員のご尊父様がお亡くなりになりました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。4月15日金曜日は例会の予定はございません。

21日の諏訪湖RCとの合同花見例会は中止となりました。

22日の例会はロータリー情報委員会担当です。八幡委員長ご準備宜しくお願い致します。幹事報告は以上です。

◆クラブフォーラム

●会員卓話・三澤会員＝三澤です。よろしくお祈りいたします。本日は自己紹介と家族の紹介とあと、会社の方ですね、会社は税理士法人、運営しているんですけども、そういった仕事の相続の話、あとはいろんな統計資料もあるので、現状はどうなのかというこんなラインナップでお話をさせていただければなあというふうに思っています。私は昭和52年の10月生まれで今年で今44歳。諏訪市出身で東海大学の経済学部そしてその後専修大学の経済学専攻の修士の方に進みました。

大学院が終わった後は、東京の西新宿のアイランドタワーというあの高層ビルの中の税理士事務所に入社をしまして、そこで1年半ほどまず修業を積みました。もうあと3ヶ所大手

税理士法人の方でいろいろと修行を積む予定だったんですけども、急遽平成16年に父から諏訪にもうそろそろ戻ってきてもらいたいということで、平成16年、諏訪の方に戻りました。そして平成19年に税理士試験が合格することができましたのでそこから平成27年に税理士法人三澤会計の所長を受け継いで現在に至るという状況でございます。

家族はコロナ禍でなかなか家族写真というものがなく3年ぐ



らいの前の写真で少しちょっと古いものになってしまっているんですけども、私の家内が同じ年で下諏訪生まれでございます。そして長男が平成20年生まれで諏訪中学校の2年生になり

ます。今やもう身長がほぼ同じぐらいになってきてまして3年で大きく体つきも育っているという状況です。次男が平成22年生まれ、11歳ということで城南小学校の今の6年生でございます。去年からペットの家族が増えまして、ウィルという名前でお母さんがチワワでお父さんがマルチーズとトイプードルのミックスという形で今このような家族構成となっています。私の方は40歳までは青年会議所や仕事の関係でほぼ家のことは奥さん任せというような生活を送っていたんですけども40歳を超えて今子供が小学校から少年野球をやっていますので、週末土日はほぼグラウンドの上で野球を教えています。小針さんとうちの子も当時同じチームの学年は違うんですが同じチームでやっています今でも週末はほぼ一緒にグラウンドの上におります。また本日は下社の里引きということで私も御柱過去3回ぐらい元綱をやらさせていただいて今は現場を降りて、地区の御柱委員の役員の三役を務めて会計等をやっているということで土日はほぼ野球、御柱の毎日を今生活しております。

…私の父でもある会長なんですが、ロータリーの皆様には大変長らくお世話になっております。3年前に脳出血で倒れてしまってほぼもう、相当重い脳出血だったものですから、もうなかなか難しいと言われていた中だったんですけども、この3年間一生懸命リハビリをしまして、外にも車椅子で出れるようになりました。また先週うちの会長は会社に行くことを一番の大目標にしています。先週初めてやっとその目標が叶って会社に来ることができました。スーツを着てみんな本当に喜んでます。現在は倒れたときの状況からは想像つかないぐらい元気になっています。本当に私も嬉しく思っています。私の趣味なんですけどもゴルフ

と海釣り、コロナ渦でここ3年間は行けていないんですけども、顧問先のお客様とですね静岡だったり三浦行ったり金沢行ったりと毎年釣りを楽しみにしています。

海釣りなんですけれども結構釣れてですね、数百匹ぐらい1日でみんなで釣り上げて、地元を持って帰ってきて諏訪や茅野の飲食店に配ったり、自宅でさばいたりというような、そんな生活を楽しみにしています。またコロナが落ち着いたら行きたいなあというふうに思っています。

またロータリーに入る前は青年会議所を10年間、副理事長までやって結構...

活発的に活動させていただきました。前日のニュースになっ

てたと思うんですけども元横綱の稀勢の里親方のところに岡谷の林くん兄弟が入ったというニュースがあったと思うんですが、私がわんぱく相撲を開いていたときに、彼ら2人も出ていて、なんか嬉しく思います。

ここまでちょっと趣味とか個人的な話をしてきましたが少しちょっと真面目なお話もしたいと思います。今税理士法人三沢会計としてグループ会社はコンサルティング会社と社会保険労務士事務所そして行政書士事務所と

ということで、その人数が、今週も新入社員が3名入りしましたけれども総人数が今42名で女性の方が多いんですが、創業63年という形で事業の方を行っています。社内の取り組みっていう形でなかなかコロナ禍集合ねっていうことは難しいんですけども、毎年このブレインストーミングっていう形で付箋を貼っているいろんなテーマをチームに分けて開催しています。発表会を行ったりという形で、研修の一環として毎年このような社内で行っています。仕事の関係ですと、やっぱり相続の関係を非常に中心的に力を入れていますので、相続税の申告は全体の大体ですね6%から7%ぐらいお亡くなりになった方の、相続税がかかると言われていました。諏訪税務署管内ではですね1年間で大体120件ぐらいの相続申告が出されております。資産税の現場でいろいろ現金が云々っていうこともよく記事に載ってたりするんですけども、いろいろとですね実務的なところでは本当にいろんなことがあります。

例を二つぐらい挙げるとするとですね、財産の関係の遺言に近いものでどこかに金塊が埋めてあるみたいな、メモ書きが出てきたものですから相続人と弁護士と私でどこに埋まっているんだろうっていう事で駐車場あたりみたいなメモ書きがあったので、真夏に必死にシャベル持って、みんなで掘ったっていうようなこともありました。実際全然出てこなかったんですけどもどうにもならなくて、顧問先のお客さんに重機持ってきてもらって、掘り進んでいたら本当に出てきた。その中で金の延べ棒が何本もあったり現金が何千万あったりとか、そんなような事例を経験したこともあります。逆に相続人で私の友人からの依頼の相続の案件もありました。それは相続人がいなくて、養子縁組をそのまま友人が遠い親戚ということであって相続の現場でその亡くなりになった方の通帳等をやはり5年間分ぐらいは全て遡ってお金の流れを追いかけていきます。大きい金額が出ていてそれが不動産の購入とかがつなれば、そういった紐付けをしていくんですが、そのケースはどうしても通帳から引き落とされた金額が1億6000万ぐらい合わないようなケースがありまして、その友人にも必ずどっかに1億6000万があるんじゃないのかっていう話で、散々金庫とかを探してもらったんですけどもなかなか出てこなかったんです。申告直前に、クローゼットの奥の床下の中にダンボールで1億6000万やっぱあってですね、そういう付け合わせをしなかったらおそらくそれは見つからなかっただろう。相当、感謝されましたけども、そんなようなケースがあったりと、相続の現場は非常にリアリティのあるそんなようなケースもあります。争いごとの多い相続っていうのが近年かなりやっぱ多くなってきてまして、今、相続も相続税の申告に30件ぐらい仕掛かりで進めているような案件あるんですけども、その中の大体30%から40%近くまでやはり相続人同士でもめてしまっているケースがあります。

なので、税理士としてだけではなくて弁護士先生と連携をとって行うような相続が近年急激に増えてきているなあという印象がございませう。また富裕層との二極化やお金の価値について、本当に財産の中でも二極化が進んでるなど、相続財産は10億円を超えると税務署管轄ではなくて国税局の調査になるっていうのを言われているんですけども、

10億円超えるような保険もやっぱりあったりして、相続人が数億あってもいなくて、お金の使い道がなくて最終的に寄付をされるとか、いろんなケースを目の当たりにします。

その中で現状の法人企業の赤字企業の割合って国税局が統計出してるんですけども、令和元年の資料なんですけど世の中の7割の企業が赤字ってよく耳にすることあるかと思うんですが、直近では平成21年の7割ぐらいからこの10年間実は6割ぐらいまで下がってきてたんですね。

なんですけどもこの先にコロナの影響があるのでどういう数字が出てくるかということでございませう。

また業種別という形で数字を見てみますと、真ん中の赤いラインで業種別になっているんですが実は建設業が53.9%って赤字企業が一番少ないです。

逆に、コロナ前でも飲食料理旅館業というものは73.6%が欠損法人の割合なので、業種的には常に厳しい業界、そこにさらにコロナで追い打ちになっていると。

右側は利益のベースの売上の約5%最終利益を確保するっていうことを大体言われていると思うんです。

やはり5パーから10%、利益が出てる会社はですね特に金融不動産っていうのは1割ぐらい売上対比で高付加価値として利益を出すというふうなのが、統計資料にも出ています。

統計資料なので黒字企業の割合が先ほどの全体のバランスのデータより多くなっています。

それでも直近やはり飲食サービスは2割ぐらい黒字で残りの80%近くが赤字というような状況、それでもやはり建設業というのは黒字の割合が比較的多くて6割と

というような数字になってます。ちょうどこの4月新入社員というところなので、これ新入社員の初任給って今どういう水準なのかという資料の直近の統計で長野県はですね実は大学男性22万6300円と女性が21万8200円ということで、

…20万を超えてきています。全国的に見ても長野県、特にこの諏訪地方は、実は20万円を、まだ19万5000円から20万円を初任給に設定している企業が実は多く、ございませう。

だいぶ実はこの5年間で20万のラインは超えていて賃金のデータもだいぶ上がってきていて初任給の設定をどういうふうにするのかというところは企業の皆様からよくご相談を受ける部分でもあります。こういった数字が統計上からも出ていうことと、あとは有給の企業の休日って一体どうなんだろうということ、令和3年調査では年間休日数が110日が規模別にあの統計データが出ていますが、上場企業になると平均が119から120と言われていて規模が小さくなると110を切るというのが現行の休日の状況です。

また有給の取得率ということなんですけども、働き方改革で有給取得の義務化は5日以上とかがあっていうふうにあるので、急激に右側のグラフは上がってきています。

令和3年度では18日付与に対して10日は有給取得をされるというのが平均値になっています。

産業別に見てもなかなか120日休みでなおかつ有給で10日休

みとなると我々、経営者側からですね非常に厳しい状況なおかつ賃上げをして材料費が上がっている非常に厳しいですね。直近の状況じゃないかなと思います。これは国がそういう政策として行われているのがやはり反映してきているというところでございます。あとは離職率とか入職率ってのは大体15%前後ですね長い年月推移しております。共働き世帯というのは1247万世帯まで、今急激に増えてきて共働きが当たり前の時代というふうに言われています。あと最後に退職金のところ。退職金の中小企業の退職金って一体どうなのかということって、以外によく聞かれます。中小企業のモデル定年水準というところを一番上の数字で1118万円が、定年まで勤めた場合の支給額と言われています。大企業になりますと大体相場が2500万と言われていますし公務員も2100万という形で、公務員大企業と中小企業の退職金の格差というところは今後、雇用の部分では非常にテーマです。積んでいかないと、この費用負担は難しいという形になります。規模別に見ても100人から300人ぐらいが、定年までだと大体1300万ぐらいで10人から50人規模で1050万ぐらいです。かなり駆け足でお話させていただきました。時間の都合もあるかと思いますが、私からの卓話としてお話以上とさせていただきます。どうもありがとうございました。

#### ◆今後の例会日程

4月29日	金	法定定休日
5月6日	金	準法定定休日
5月13日	金	クラブフォーラム 関係団体活動報告